



# つづける・つなげる・つくり・ そして安全へとつなぐ



千葉県八千代市  
緑が丘西自治会 初代自治会会長 鈴木 介人

## 1 はじめに

私は、平成29年12月号の本誌にて「子供から始まる街の防災の取組」として執筆をしたことがあり、その際に「街全体をどうしていくべきか?」と考えて、「人を知る」「地域を知る」としました。それらの課題を解決するには?継続は力と捉えて7年の月日が経ちましたが果たしてそれらはどうなったのかをお話したいと思います。

## 2 地域の現状 ～0からのスタート～

平成29年に街が誕生し、人が多く居住するようになったものの、防災の担い手としての人員や予算、地域の基礎的な組織である自治会がないことから、緑が丘西自治会を設立しました(設立時は地区人口1,107人)。設立時は76世帯で加入率は16%で厳しい船出で現在は、令和6年3月末5,398人平均年齢30歳で人口は4.8倍となり会員は760世帯となりました。自治会が設立できたことで、人員と活動予算が確保でき最初は顔を覚えるのがやっとという感じで、2年目において防災・防犯を念頭に、先輩方(70歳代)を中心に「安全会」を設置しました。

## 3 防災のステップアップ

安全会設置から2年目から、小学校区の避難所運営委員会の中核組織として活動をし、毎年の避難所開設訓練は自主的に実施しています。継続をしてきたことから防災に対する振り返りから避難所をメインとした対応を進

めていいのかと疑問もあり、活動の外部的な支援も必要と考えました。そのことから地区防災計画を作成することで、あらためて防災について考えを見直すこととしました。

### ○地区カルテの作成

自分たちの地域についてリスクを知ることから始めました。先進的な市町村においてはすでに防災カルテの作成がされていますが、私たちの市においてはカルテ作成がされていないため、地区防災カルテの作成から入ることになりました。公開している情報を収集し、地域情報は自治会からの調査結果をもとに作成し、地域の現状について把握をしました。

### ○地区防災計画の策定

策定については、複数の会議と、アンケート実施、防災ニュースの発行などがあげられます。取り組みから課題としたのは、以下の点です。

- ①防災に対して「他人事に思っていることを自分事に」
- ②避難所中心の地区としての取組について改善
- ③在宅避難に対する対応についてなどです。



## 4 防災力向上のための改善

### ①意識向上のために

- ・令和5年から地区全体の交流や防災意識が低い世代にも参加することでの意識向上を目指したのが「ぼうさい運動会」です。住民の連携や団結につながり、評価はよいです。



- ・「地区防災計画」については毎年冊子を発行し、様々な分野の方からご意見をいただくことで意識を高める意識づくりをしました。

### ②名称の変更

6月においてそれまでの名称「みどりが丘小



学校避難所運営委員会」を「みどりが丘小学校防災運営委員会」に変更し、地域全体で防災力を高めることで個人・自治会・団体・施設も横断を進めたいと考えています。

### ③在宅避難に対する対応

在宅避難所が避難所殺到しないように各ブロックでの安否確認などができるように仕組み作りを進めています。

### ④地域の防災関係図の作成

学校区内において自治会や他の組織とのかわりについて、図で明確にすることで地域内の自治会・社会福祉関連施設とつなぐようにすることとしました。

## 5 防災運営委員会を設置して

名称変更をして何が変わったのか?まずは、避難所運営委員会は地域住民が中心に避難するというイメージであり、どうしても避難所を中心として考えてしまいます。そのことによって活動の範囲を自ら狭めてしまうこととなりますが、防災運営委員会となると、活動連携の幅や、取り組みの幅が広がることができています。

これらのことは年に1回は地区内の社会福祉施設の管理者に呼びかけをして9月に図上演習を行い、地域と施設との連携を確認し、顔を合わせることで防災力の向上を目指すことができています。

